

確かな学力・豊かな心・健やかなからだをもち、
未来をたくましく生き抜く生徒の育成

命について考える 1

すっかり「もの思う秋」になりました。これから3回にわたり、命について考えてみたいと思います。

まずは下の「最後だとわかっていたら」という詩を呼んで下さい。

この詩は、ある小冊子に掲載されていたものです。

想像してみてください。この詩は誰がどんな思いで作ったものなのでしょう。

命に対する切々とした思いが、かなり緊張感のあることばで表現されていると感じられるでしょう。

英語の匂いもしますね。

これは溺れた子を助けようとして、自分も溺れ死んだ10歳の長男サムエル。

その母親が短すぎる人生を終えたわが子への気持ちを綴ったものです。

この詩は、

「命に対するいとおしさと危うさ」

「今をどう生きるべきか」

など、今を生きる私たちに多くのメッセージを送ってくれています。

先生はこの詩を、

「世の中いつ何があるか分からない。」

気をつけて生きよう

という意味ではなく、

「一日一日を大切に生きよう」

という、**力強い宣言と若者へ託す未来への希望**と受け取りたいのです。

みなさんはどう考えますか？

≪「最後だとわかっていたら」≫

あなたが眠りにつくのを見るのが、最後だとわかっていたら、わたしはもっとちゃんとカバーを掛けて、神様にあなたを守ってくださるように祈っただろう。

あなたがドアを出て行くのを見るのが、最後だとわかっていたら、私はあなたを抱きしめ、そしてまた、もう一度呼び寄せ、抱きしめただろう

あなたが喜びに満ちた声を上げるのを聞くのが最後だとしたら、私はその一部始終をビデオに撮って毎日繰り返し見ただろう。

確かにいつも、明日はやってくる。見過ごしたことも取り返せる。やり間違っただけ、やり直す機会がいつでも与えられている。と、思っている。

「あなたを愛している」と言うことは、いつだってできるし、「何か手伝おうか？」と声をかけることも、いつだってできるし、と、思っている。

でも、それが私の勘違いで、今日ですべてが終わるとしたら、私は今日できるだけのことをしたい。そして私たちは忘れないようにしなければならない。

若い人も年老いた人も、明日は誰にも約束されていないのだということを、そして、今日が最後になるかも知れないということ。

明日が来ると思っているから、今日も過ぎ去っていくのだ。もし明日が来ないとしたら、あなたは今日を後悔するだろう。

大切な人とコミュニケーションする、ほんのちょっとした時間をどうして惜しんだのかと。

いそがしさを理由に、本当にやるべきことをやったような気ですごしてしまったのかと。だから今日、精一杯生きよう。そして、あなたの大切な人たちに、いつまでも大切な存在だということ、しっかり伝えよう。

本当に精一杯生きているのか、毎日、自分に振り返ろう。やり残したことはないのか？意味のある生き方をしたのか？役に立つ生き方をしたのか？そして、精一杯に行動しよう。

また、「ごめんね」や「許してね」や「ありがとう」や「大丈夫」を伝える時をもとう、そうすればもし明日がこないとしてもあなたは今日を後悔しないだろう。

今を大切にしよう！ 今に生きよう！ 今を精一杯にしよう！ 今するべきことをやろう！

【ノーマ コーネット マレック】